

1月16日(金)に震災に関する道徳を行いました。阪神淡路大震災を経験した中学生の作文、「震災の中で」を扱いました。筆者はボランティア活動をする中で、人と出会ったり、うまくいかなかったり、心ない言葉を言われたりします。「それでも今、相手のために何ができるのか」を考える授業でした。1月6日(火)に島根県で大きな地震があり、いつ大きな災害が私たちの生活を一変させてしまうか分からない状況の中、生命の尊さや自分たちにもできること、ボランティアをするときに大切にしたいことなどを考えられた時間となりました。



授業の感想を紹介します。

- ・本当の親切とは何か、自分がボランティアをしたいがためだけに参加しに行ったりするのではなく、全体のことを考えて行動しなければならないと思った。
- ・震災など、一人だけではどうにもならないときは、みんなで協力して、自分にできることをやるのが大事だと思う。また、自分が助けてもらうときは、それが当たり前だと思わず、感謝を伝えられるようにしたい。
- ・校外学習でも震災を学んだが、この授業でも震災について再び考えられる良い機会になった。
- ・「人を救うのは人しかいない」というところが心に残った。
- ・「何かをしてあげよう」ではなく、「何かをしよう」と考え方を变えることで自分の気持ちの負担が軽くなり、もう少し「～しよう」と思うことができ、より多くのボランティアをすることができると思った。
- ・震災があったからこそ、気づかされたことがいっぱいあった。これからも自然災害によって気づかされることを起こってから気づくのではなく、日ごろから頭の片隅に入れておいて、実際に起きたときに素早く行動することを心がけていく。
- ・近年心配されている南海トラフは自分達も被災することが可能性としてあるから、自分が防災・減災について考え、何かを実行することで自分も周りも助けられると思う。